

オンライン 園内研修

配信期間に
研修を計画



講義+話し合いで学べる



職員全員で
学びを共有



保育の専門性を高める

各講座の詳しい内容は → <https://ennaikenshu.com>

1
講座

参加費

22,000円(税込)

※施設単位でお申し込みください

配信期間：2026年5月～2027年3月

接続機器数、視聴回数に制限はありません。
スマホ・PCから視聴が可能です。



保育の専門性を園全体で高める研修

配信期間：2026年5月～2027年3月末

年間のスケジュールに合わせて、様々なテーマから選び、職員全員で学びを共有いただけます

(1) 012歳児保育 一人ひとりの発達を丁寧に支える、保育者の関わりと環境構成

乳児期に大切にしたい育ちを支えるための、保育者の受容的・応答的な関わりと、発達過程に応じた遊びの環境構成について、専門的な視点から理解を深めましょう。

講師 瀧薫

大阪芸術大学教授、社会福祉法人子どものアトリエ理事長。園長職を経て2018年に法人を設立し、大阪と奈良で園を運営。子どもの発達と保育の専門性をテーマに、全国各地で講演や保育士研修の講師を務め、主体的な遊びを支える保育環境づくりを発信している。

(2) 345歳児保育 一人ひとりの主体性を大切にしたい集団づくりのために

遊びこそが発達の原動力。子どもが自ら感じ、考え、行動する「主体性」を育むために、集団生活の中で、一人ひとりを支える環境構成と、柔軟な援助のポイントを学びましょう。

講師 瀧薫

大阪芸術大学教授、社会福祉法人子どものアトリエ理事長。園長職を経て2018年に法人を設立し、大阪と奈良で園を運営。子どもの発達と保育の専門性をテーマに、全国各地で講演や保育士研修の講師を務め、主体的な遊びを支える保育環境づくりを発信している。

(3) 未来に残る園づくり 人が集まる、人が輝く保育

定員割れや保育者不足など保育は新たな局面を迎えています。保育者が独自の専門性を自覚して輝き、保護者からも信頼を集める保育について一緒に考えてみましょう。

講師 高山 静子

東洋大学元教授。教育学博士(九州大学)。保育と子育て支援の現場経験の後、保育者養成に携わり、2025年4月から研修に専念。研究テーマは保育者の専門性と共有化の方法。保育者の専門性を言語化した書籍が(「環境構成～」「保育者の関わり～」「保育内容～」「子どもの把握と理解」)がある。

(4) 育児担当制が育むもの 乳児保育、幼児保育、その先につなげる

育児担当制は乳児期で完結するものではありません。「安心の土台」は、幼児期の集団活動を支え、就学後の学びに向かう力と生活できる力へとつながります。一生の育ちを支えましょう。

講師 西村 真実

武庫川女子大学准教授。保育士として豊中市立保育所に15年勤務、大阪市立大学大学院修士課程修了後、2005年4月より保育士養成校の教員として勤務。著書に「育児担当制による乳児保育実践編：一人ひとりへの生活・発達・遊びの援助」「育児担当制による乳児保育：子どもの育ちを支える保育実践」など。

(5) 充実した遊びがひろがるために 子ども理解と保育の準備

保育者が願う「豊かな遊び」を実現するために、子ども理解の視点、確かな発達の知識、そして、日々の保育で具体的に積み重ねる環境構成、具体的なプロセスを学びます。

講師 高橋 惇

あさひがおか保育園園長、一般社団法人forふくしま理事長。「子どものしあわせ」を理念に保育を実践。保育に関する研修活動も行い、心身の発達や遊びなどの保育に関することから、子育て、保育園運営や人材育成など多岐にわたる。

(6) 多様性を受け入れる保育の手立て 集団生活のなかで、個別の対応を実現する

多様な生き方が交差する保育の現場。子どもが自分と他者を尊重し、共存する力を育むための具体的な手立てを学びます。生活や遊びの姿に合わせて、探究しましょう。

講師 野藤 弘幸

作業療法士。育ちに支えが必要な子どもと保護者の相談、そこに携わる支援者への研修を行う。著書に「発達障害の子どもを生き詰まらせない保育実践」「保育現場で悩む「おとな」への理解と対応」がある。

(7) 子どもが育つ楽しい造形表現のために 環境(材料、場所、行為)と支援を通して

造形表現の目的は「上手に作品をつくること」ではありません。子どもが材料に触れ、試行錯誤する「プロセス」が大切です。子どもの表現や遊びを引き出す環境と関わりを学びます。

講師 辻 政博

東京都の公立小学校図工専科教員として30年勤務し、以降は大学にて教員、保育士の育成に携わる。文科省・国立教育政策研究所の調査協力者、NHKEテレ「キミなら何をつくる？」番組委員を歴任。「文部科学省検定図画工作教科書」など著書多数。アートを通じた子どもの未来を育む活動に尽力している。

(8) 絵本が育む子どもの力 主体性、共感性、想像力・創造力、言葉、科学、親子関係

絵本は、子どものさまざまな力を育みます。想像力や言葉、科学の芽を育むアプローチから、主体性や共感性を支える心の交流まで、絵本が持つ多面的な力を解き明かしましょう。

講師 浅木 尚美

図書館司書を経て、白鷗大学教育学部教授、2026年度より研修に専念。絵本の読み聞かせと乳幼児期の言語獲得やアタッチメント、発達に与える影響を研究、デジタル化が進む現代において、親子が絵本を通じて絆を深めることの重要性を説く。著書に「絵本力：SNS時代の子育てと保育」がある。

+実践講座「絵本を保育実践へ活かす研修」(松本崇史・こばと保育園) ※2025年開催を再配信

好評の研修の再配信

配信期間：2026年5月～2027年3月末

これまでに受講できなかった研修を、ぜひこの機会に！

(9) 子どものことばの獲得と学び 保育者が理解すべきこと

人生で最も重要とされる乳幼児期を、園で過ごしながらか成長する子どもたち。学びの土台となる「ことば」体験を、保育者はどのように展開すべきか学びます。

講師 今井 むつみ

慶應義塾大学名誉教授、日本認知科学会フェロー。専門分野は、認知科学、特に認知言語発達科学、言語心理学。受賞：Cognitive Science Society Fellow (2018年アジア初)、日本心理学会国際賞奨励賞(2007年)など。著書に「学力喪失」など。

(2025年開催)

(10) 保育者の役割をアタッチメント、集団共同型育児、赤ちゃん学の視点から学ぶ

子どもにとって、信頼できる保育者の存在は不可欠であり、乳幼児期にその役割は重要です。どのような生活と遊びを展開していくべきか、専門的な視点からそのヒントを掴みましょう。

講師 遠藤 利彦

東京大学大学院教育学研究科教授、東京大学CEDEPセンター長を兼務。専門は発達心理学、感情心理学。おもな著書に「赤ちゃんの発達とアタッチメント」「アタッチメントがわかる本：「愛着」が心の力を育む」「心を育み発達を支える：保育におけるアタッチメント」などがある。

(2025年開催)

(11) 乳児保育 一人ひとりを大切に育てるために

子どもが、確かな生活習慣を身につけて主体的に育つために、保育者との愛着形成を支え、発達に合わせた配慮と援助、そして多様な遊びを、豊富な実践写真から学びます。

講師 吉本 和子

やまぼうし保育園園長、社会福祉法人 萬年青友の会 創設者。「一人ひとりを大切に育てる」を理念に、乳幼児の発達に即した保育を実践。現在は全国の保育施設で実技指導や講演を行うほか、積木遊びや乳幼児保育に関する著書も多数執筆している。

(2022年開催)

(12) 育児担当制の保育実践 始める、進める、深めるための具体的な手立て

多くの現場で実践される育児担当制の悩み、つまづき、気づき、工夫、手立てを共有して、学び合う研修です。始めた園も、進んだ園も、深めた園も、共に具体的に学びましょう。

講師 井上 章久・井上 ゆかり

わかたけ保育園園長。商社勤務を経て2017年に園長就任。「学び続ける保育実践」を大切に、現場での試行錯誤を活かした課題解決に取り組む。現在は熊本・佐賀県内を中心に、現場視点での「よりよい保育」をめざした研修活動を幅広く展開している。

(2024年開催)

(13) 子どもの発達を支える環境構成 「遊びの写真」から保育の知恵を学ぶ

保育者は、多種多様な素材・おもちゃ・環境を構成しています。アフォーダンスの視点で、様々な遊びと環境を読み解き、明日の実践につながる知恵を学びます。

講師 細田 直哉

国立市幼児教育センター所長。東京大学卒業、東京大学大学院教育学研究科修了。小中学校教員、野外保育のNPO、大学教員を経て現職。専門は「人間の発達を支える環境づくり」。

(2024年開催)

(14) 保育環境を写真から読み解き、実践に活かす 子どもが見ている世界に気づくために

保育現場の環境の写真を取り上げながら、アフォーダンスの視点から環境の持つ意味や可能性を探り、子どもの発達のための環境構成のあり方を学び直します。

講師 細田 直哉

国立市幼児教育センター所長。東京大学卒業、東京大学大学院教育学研究科修了。小中学校教員、野外保育のNPO、大学教員を経て現職。専門は「人間の発達を支える環境づくり」。

(2025年開催)

ご希望の研修の番号(1)～(14)をご記入ください。		お申し込みは こどものとも社 へ
施設名	担当者名	
メールアドレス(お申し込み後、メールにて詳細をご案内します)	電話番号	